



速報第17号
発行
富山国際大学附属高校 新聞部
富山市願海寺4-4-4
E-mail:
press@tuins-h.ed.jp

バドミントン インターハイ ベスト8!

学校対抗と個人ダブルルスで

バドミントン部は8月8〜13日に高岡市竹平記念体育館などで行われた全国高校総体(インターハイ)に女子県代表として3部門に出場し、学校対抗の部では準々決勝で敗れ5位(ベスト8)となった。また、個人対抗の部ではダブルルスで中出すみれ・押見綾奈ペア(38H)が準々決勝で敗退し5位(ベスト8)、シングルスでは竹内真那さん(38H)が4回戦まで進み9位(ベスト16)という成績をおさめた。



インターハイに臨んだバドミントン部。(後列左から)土井、名倉、竹内、押見、中出、早川の各選手 〓高岡市竹平記念体育館

【女子学校対抗】5位
2回戦 対 八代白百合学園(熊本) 3-0
3回戦 対 埼玉栄(埼玉) 3-1
準々決勝 対 県立柳井商工(山口) 0-3

【女子個人対抗】ダブルルス
中出すみれ・押見綾奈 5位
竹内真那・名倉あゆみ 2回戦敗退
土井さくら・早川夏稀 1回戦敗退
シングルス
竹内真那 9位
中出すみれ 17位
土井さくら 2回戦敗退

開催県代表として開會式で選手宣誓を行った主将の中出さんは「コロナ禍でも大会が開催されたこと、たくさんの方々のサポートによってバドミントンをできたことに感謝して全力で試合に臨ん

だ。団体戦で、選抜で負けた埼玉栄とのベスト8決めは、必ずリベンジするぞと皆が一つになり気合の入ったいい試合だった。互角の試合だったのでリベンジできた時には涙が出るほど喜んだ。自分達の一番の目標には届かなかったが、このチームで一つになって戦えたこと、バドミントンができたことが何よりもうれしかった」と話した。

地元開催のインターハイを振り返り「バドミントン人生で一番楽しくて幸せな思い出に残る大会になった。国際高に来て最高の仲間、先輩、先生、監督に出会えてよかった」と思いを噛みしめた。

「インターハイで見つけた課題はたくさんあるので、大学でもバドミントンを続けて、高校で達成できなかった

た日本一の目標を達成したい」と語る中出さん。後輩達には「たくさん考えて、必死にやっていたら結果は絶対ついてくる。皆で励まし合いながら、とにかく全力で頑張ってください」と望みを託した。

また、中出主将とダブルルスのペアで奮闘した押見さんは「ダブルルスで印象に残っているのは、ベスト8決めの試合。団体戦優勝校のダブルルスとの対戦になり、相手にリードされることが多くて正直、負けると思ったが、最後までやってきたことを信じて自分達らしく攻めのプレーができた。ラリーが長くすごくきつい試合だったが、本当に楽しいバドミントンをすることができた。最後まで悔いなくてよかった」と言い切る。

押見さんも「大学で自分を高めるためにバドミントンを続けたい。高校生とは違ったプレーや技術を身につけ、インカレに出て活躍できるように頑張る」と将来を見据える。後輩達には「一人一人が目的や意識を高く持って、日々の練習に取り組んで悔いなく最後までやり切ってもらいたい」とメッセージを贈った。